

福島県PTA連合会会報  
第94号\_H26.07.11

# PTAふくしま

## 第94号

福島県PTA連合会  
編集/調査広報委員会  
印刷/泉印刷所

### みんなで楽しもう!



(将棋教室)



(昔話教室)

### 平成14年から続く 「土曜教室」の 一コマ

※多くの教室から子ども  
たちが選ぶ



(ガキ大将教室・川遊び)



(押し花教室)

#### 《主な記事》

- 新会長あいさつ P1
- 平成26年度県PTA連合会役員一覧 P2
- 第49回県PTA広報紙・学校新聞コンクール P2
- 退任あいさつ P3
- 特色あるPTA活動 P3
- 「国際交流・国内研修事業」に参加して P4
- 第62回県PTA研究大会須賀川大会 P5
- 安全互助会から P6

[提供 喜多方市立堂島小学校]

#### ●県PTA連会長あいさつ



福島県PTA連合会  
会長 村上 和行

### 「すべては子どもたちのために」

会員の皆様、初めまして。今年度会長となりました村上です。

現在、田村地方PTA連合会顧問であり、PTA歴は十四年目となります。福島の子どもの現状を全国に向けて発信された前会長の後を受けて、また、一緒に活動してきた素晴らしい仲間がいなくなった後、私に何ができるのか大変不安もあるのですが、新しい仲間とともに精一杯がんばってまいります。

まずは、熊本県水俣市との交流事業です。昨年、県内全域より集まった四十名の中学生の皆さんと研修して参りました。大変優秀な一期生であり、今後が楽しみとなりました。この事業は、継続することにより、更に効果を発揮すると思えます。

水俣市の生徒さんは、豊かで美しい海を汚してしまったのは私たち人間であるが、豊かで美しい海を守り、未来に引き継いでいくのも私たち人間しかない。私たち水俣の子どもたち、そして福島の子どもたちが先頭を走り、二度と同じ過ちを起さないよう未来をつくっていくしかないんだと考えています。交流を図ることにより福島の子どもたちは、福島をどうしたいのか、しつ

かりとした青写真を見せてくれるでしょう。福島第一原発の事故後三十二年先、地域に子どもたちがいなくなれば、地域が成り立ちません。何のための廃炉かということです。地域の子どもたちは地域で育む。伝統であるとか文化であるとか、語り継がれていくことにより地域が守られていくことになるのだと思います。

福島を好きになり、福島のために働きたい、福島で暮らしたいという子どもたちを育てていきたいと思えます。水俣の交流は福島の実を創ると期待しています。

次は情報の発信であります。小さな女の子が母さんに言います。「お母さん、私は放射能浴びたから赤ちゃん産めないんだよね。お嫁さんになれないんだよね。」とお母さんには言います。「そんなことないんだよ。大丈夫なんだよ。大丈夫なんだよ。」と。しかしながら小さな我が子に理解してもらえない情報があります。氾濫する情報の中、自分の進むべき方向を見失った子どもに、正しい方向を示す役割が求められます。子どもが一番近くにいる大人であるから。PTAを大いに活用できるように努めてまいります。

# 平成26年度 福島県 PTA 連合会役員一覧

副会長	村上 和行 (田村地方P連・顧問)
副会長	山岸 波 (福島市P連・会長)
副会長	鈴木 辰也 (岩瀬地区P連・会長)
副会長	諏訪 秀一 (会津若松市P連・会長)
副会長	小林 利明 (いわき市P連・会長)
副会長	会田 智康 (県小中学校長会長)
副会長	君島 勇吉 (県中学校長会長)
副会長	藤野 圭史 (川俣町P連・代表)
副会長	稲田 憲二 (耶麻地区P連・会長)
副会長	渡邊 友行 (相馬地方P連・会長)
副会長	國井 文郎 (安達地方P連・会長)
副会長	瀧田 勉 (郡山市P連・会長)
副会長	佐藤美智子 (母 親 代 表)
副会長	貝羽 貴子 (県 北 ・ 伊 達)
副会長	佐藤美智子 (県 中 南 ・ 岩 瀬)
副会長	横田 純子 (会津・会津若松)
副会長	大樂 治美 (浜 ・ い わ き)
理事 (役員を除く)	菅野 政光 (伊達地区P連・会長)
理事	坂本 敬 (石川郡P連・会長)
理事	吉田 聡 (田村地方P連・会長)
理事	齋藤 正明 (西白河P連・会長)
理事	佐藤 光一 (東白川郡P連・会長)
理事	田中 義和 (北会津地区P連・会長)
理事	長谷川孝一 (両沼地区P連・会長)
理事	白井 武 (大沼郡連合・会長)
理事	渡部 憲一 (南会津郡P連・会長)
理事	佐藤 秀雄 (県北ブロック代表)
理事	遠藤ひとみ (県中ブロック代表)
理事	大越 憲峰 (県南ブロック代表)
理事	矢澤 良伸 (会津ブロック代表)
理事	川島 敬章 (南会津ブロック代表)
理事	鈴木 宣雄 (相双ブロック代表)
理事	中島 清州 (いわきブロック代表)

第49回県PTA広報紙・  
学校新聞コンクール  
**晴れの受賞校**

第四十九回県小中学校新聞・PTA広報紙コンクールの審査会は四月十六日、福島市の福島民友新聞社で開かれた。県内の小学校五十二校、中学校二十三校の計七十五校から応募があった。審査の結果は次の通り。

### 〔PTA広報紙の部〕

- ◇最優秀賞  
「大久保」(大久保小)  
「はちのす」(白河二小)
- ◇優秀賞  
「せいめい」(清明小)  
「和多里」(渡利小)  
「かいせい」(開成小)  
「ほおの木」(喜多方二小)  
「めばえ」(小名浜一小)  
「大 樹」(平中)

### ◇入 選

- 「醸芳通信」(醸芳小)
- 「玉が滝」(岩江小)
- 「あしなみ」(山形小)
- 「カリヨン」(小金井小)
- 「鶴 翔」(鶴城小)
- 「あげつち」(平一小)
- 「みくわば」(渡利中)
- 「S A Z A N K A」(平野中)
- 「かしわ」(西郷一中)
- 「清 流」(南会津中)

### 〔学校新聞の部〕

- ◇最優秀賞  
「よい子熊倉っ子」  
喜多方市立熊倉小学校
- ◇優秀賞  
「かんな」  
会津若松市立川南小学校
- ◇入 選  
「桃季の里」  
福島市立中野小学校



## 大久保小「大久保」

福島市立大久保小学校

この度、最優秀賞という名誉ある賞を頂きましたことは、大久保小学校教養広報委員会として、大変光栄に思い、広報紙作成にご協力くださった保護者の皆様、教職員の皆様、地域の皆様、そして我が校の広報紙の主役である子どもたちに、心より感謝申し上げます。

本校は、近年の児童数減少や地域の過疎化現象の大きな渦に巻き込まれ、今年度より創立以来初めて二・三年生が複式学級で編制されるなど、何かと寂しい話題が取りざたされておりました。そこで我々教養広報委員

会に出来ることは何かと模索し、子どもたちの元気を発信し、保護者・地域の皆様に活力を与えたいという信念に基づき、あくまでも子どもたちが主役の広報紙作成に取り組んでまいりました。納得のいく紙面作りのため、数度にわたる写真の撮影や特集ページの資料収集など、先生方や地域の皆様に多大なるご負担をお掛けいたしました。しかし皆様のご協力なしには、この栄誉ある賞は頂けません。重ねて感謝申し上げます。

今後子どもたちの元気な姿を紹介しながら、より見やすく、楽しい広報紙作成に励んでまいりたいと思っております。

(前PTA会長 松本 敬)

## 白河二小「はちのす」

白河市立白河第二小学校

今年も友人からの一報で受賞を知りました。驚きと感動でした。心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

今回は皆様の参考にしていただければと思い、私達白河二小の広報紙作りを少し紹介させていただきます。写真を撮る時はどの紙面に使うのか、どの角度から撮るのかなど話し合いながら撮影しています。紙面構成では、写真・文章の配置から始まり、印刷屋さんや文字の書体・色の濃度・イラスト等すべての部分において細かなところまで

何度も校正を繰り返し返します。納得がいくまで行います。最後は先生方にお任せしている学校が多いようですが、私達白河二小の広報委員会は最後まで自分達で行い仕上げています。そうすることで、作る楽しさ・完成時の喜びそして保護者の目線になって「見たい紙面」を作り上げることが出来ます。一番は、広報紙作りを委員全員が楽しんでいくことです。アイデアの引き出しはまだまだ沢山ありますので、今年一年間もまた受賞を目指して楽しみながら活動していきたいと思えます。是非皆様も楽しみながら活動していただきたいと思います。

(広報委員長 大竹 美保)

### 退任のごあいさつ

前福島県PTA連合会会長  
佐藤 辰夫

これまでご支援いただきました  
会員の皆さま、関係者の皆さまに  
心より感謝申し上げます。

平成二十二年度に会長を拝命し  
四年間重責を担わせていただきま  
した。長いような、短いような四  
年間でした。この間強く記憶に残  
ることは、東日本大震災、その後  
の原発事故です。震災直後は役員  
の招集もままならず、本会も機能  
低下に見舞われました。当時は振  
り返ると子どもたちのために何を  
すべきかを必死に考え、今に繋が  
る子どもたちの三つの権利「生き  
る権利」「育つ権利」「学ぶ権利」  
にたどり着き活動の主要な柱とし  
ました。県、国、日本PTAは勿  
論、多方面に様々な要望を行って  
まいりました。そのような中、熊  
本県P連からの一本の電話で水俣  
市との交流がスタートしました。

何故水俣なのか。水俣市は水俣病  
による差別、偏見、風評との戦い  
を約六十年経った今も続けていま  
す。人権問題そのものです。その  
歴史はまさに今の福島、未来の福  
島が：私には見えませんでした。子ども  
たちには自分が住んでいる今の福

島がどう見えるか。故郷福島がど  
うなればいいのか。どうしたいか。  
未来の福島を子どもたちにしっか  
りと考え、思いを持って欲しいの  
です。水俣の知恵と経験を借りる  
ためです。昨年十二月に県内の四  
十名の中学一・二年生と共に水俣  
市を訪問しました。県教育庁、県  
中学校長会の全面的な支援を受  
け、水俣市内の中学生たちと研修  
を実施しました。現地での研修会  
では水俣市の皆さんが、報告会で  
は本県教育長も出席し、参加した  
子どもたちに大きなエールを送っ  
ていただきました。この事業は、  
本会としては大きな事業であり、  
PTAでなければ出来ない事業で  
す。

また、昨年開催をしました東北  
ブロック研究大会福島大会では、  
東北各地から多くの参加者を得て  
成功裏に終了することが出来まし  
た。震災後ということもあり「本  
当に福島で出来るのか？」が問わ  
れましたが、開催に向け関係者が  
肅々と準備を進めてくれました。  
心から感謝いたします。

この二事業を中心は今できるこ  
と。今すべきこと、を実施しま  
いりました。私のPTA役員とし  
ての十七年間は新執行部へ引継ぐ  
ことが出来ました。

これまで支えていただいた全て  
の皆さま、ありがとうございます  
た。

### 特色あるPTA活動の紹介

#### 「ノーゲームデー運動」 への取り組み

伊達市立月館中学校PTA会長  
齋藤 隆之

近年「メディア漬け」や「ケー  
タイ依存」と呼ばれる生活習慣に  
関する問題が生まれ広がっていま  
す。特にこれらが子どもたちへ与  
える影響は大きく、子どもたちの  
生活習慣や学習習慣の確立に危惧  
を感じているご家庭は多いと思い  
ます。

そこで、私たち月館町幼稚園・  
小学校・中学校においては平成二  
十五年五月より、『忘れない！1  
のつく日はノーゲームデー』を合  
言葉に子どもたちの生活時間の見  
直し活動に取り組んでいます。以  
下、活動のポイントを紹介しま  
す。

一つ目として、月館幼・小・中  
で構成する月館ブロックPTA連  
絡協議会で現状の問題を共有する  
ことにより、月館町全体で活動す  
る下地を作ったことです。なぜな  
らこの活動に必要不可欠なもの  
は、学校間と各家庭間の連携であ  
り特に家庭での子どもたちへの働  
きかけが重要と考えられたからで

す。兄弟・姉妹がいる家庭では当  
然その間で、いない家庭でも近所  
の友達間で同じ方向性を持たなけ  
れば、活動の効果は薄れ、定着し  
ないと考えられました。

二つ目としては、啓蒙活動の継  
続が挙げられます。活動を始める  
際に活動の主旨および内容を各家  
庭や地域の方々へ通知した後も、  
学校だより等の広報紙に継続的に  
掲載してもらうこと、PTAの集  
会等で広報することを  
現在も続けておりま  
す。また、幼・小・中  
PTAにおいて自作の  
立看板を作成し校門脇  
に立てるなど、常に子  
どもたちに意識させる  
ようにしています。さ  
らに本年度はのぼり旗  
の作成、月館地区の全  
家庭に配布されるカレ  
ンダーに記載いただく  
等、啓蒙活動の継続に  
力を入れております。

三つ目としては、ま  
ずはどんな形でも良い  
から実施してみること  
です。月館地区の活動  
でも計画段階から課題  
や問題が指摘されてい

ましたが、実施することを最優先  
として活動してきました。実施し  
ながら改善していくこと、歩みは  
ゆっくりでも、着実に前に進んで  
いると感じております。

最後に、繰り返しとなりますが  
この活動の要は、学校間そして各  
家庭さらには地域の方々との連携  
です。これらが一体となって子ど  
もたちの生活時間帯の見直しに協  
力すること、裏を返せば保護者自  
身が生活時間の見直しをし、子ど  
もたちへ接していくことだと思  
います。



# 国際交流・国内研修事業報告

## 国際交流・国内研修事業を通して

猪苗代町立東中学校

三年 大坂 龍 裕

僕は三月二十六日から二十九日まで茨城県つくば市に国際交流・国内研修INつくばに参加させていただきました。初めてのことで、全国の中学生と交流を持つということには、大きな不安と期待とが入り混じったような気持ちでした。

一日目は夕方つくば市に到着しました。到着してから開講式が行われました。最初は班の人と仲良くなれるか心配でしたが、自己紹介だけで皆と距離が縮まりました。部屋が一緒になった人とは初めから何年も知っていたような感じを受けとても居心地良く過ごすことができました。みんな僕と同じような気持ちだったのです。

二日目は留学生達から自分の国のことを教えていただきました。特に聞いていておもしろいなと思ったのはパキスタンから来たアリーの話でした。パキスタンでは

マスクは医者しかしないようなのですが、日本では小さい子どもインフルエンザが流行する時期になるとマスクをしているので、全員医者なのかと思ったということでした。色々な国の話を聞いてみて日本とは違う生活や文化があり、日本ではあたり前のことでも外国人には驚くこともあるのだということが分かりました。留学生に聞いたことは、将来外国に行き実際に確かめてみたいと思いました。

三日目は未来についてのプログラムでした。しかし、僕には将来の夢がありませんでした。やりたいことがまだ見つからなかったからです。でも、周りの人はみんな夢を持っていてものすごくうらやましくて仕方がありませんでした。そこにいる友達に、未来に夢を持ちそれに向かって努力しているのです。僕は焦りましたが、皆のおかげで僕は将来について考えるようになり何かを問うようになりました。

四日目は最終日ということで未来についての発表でした。全員が最後のプログラムということで、最高の発表をしようと意気込んでいました。僕も必死に頑張りました。

た。僕らの班は最優秀賞には届きませんでした。班の仲間と一致団結して臨んだことは最高の思い出になりました。

この研修に参加し、本当に多くのことを得ることができました。四日間という短い研修ではありましたが、僕は僕にとっても有意義な研修だったと思いました。最後に僕のためにご尽力いただきました、PTA全国協議会の皆様や先生方に深く感謝したいと思えます。

### つくばで学んだこと

湯川村立湯川中学校

高倉 安理沙

私は今年の三月二十六日から二十九日、国際交流・国内研修で茨城県のつくば市に行きました。この研修は日本の全四十七都道府県の新中学三年生が集まって開催されたもので、親はもちろん、友達や知っている人も一人もいなかった。出発する前はとても不安でした。

しかし、研修先にはフレンドリーな人や留学生がたくさんいま

した。だから私もすぐにその環境になじめ、楽しく過ごせました。研修ではさまざまな活動を行いました。私が一番心に残っている活動は、「私たちの夢プロジェクト」です。この活動では、これからの自分についてや自分の将来の夢についてを班ごとにまとめて発表しました。正直、自分の将来の夢を話したり、友達の将来の夢を聞いたりする機会はそれまで無かった。あまりやりたくありませんでした。でも、私の話を聞いて「頑張れ！」と皆が言ってくれてとても嬉しかったし、友達の話も聞いてみると無謀な夢を見ている人も意外と多いことが分かり、安心しました。班の人の中には、自分が色覚異常であることに気づいて、警察官になりたいという夢をあきらめた人がいました。しかし、代わりに外交官になりたいという夢を見つけたそうです。また、アニメの宇宙兄弟を観て、宇宙飛行士になりたいと思った人もいました。最終日に行った発表会で、私たちの班は金賞を取ることができました。

ところで、留学生が私たちにくれた言葉があります。それは「Learn Every Day and Think Globally」。直訳すると「日々学び、国際的な視野で考える」です。しかもっと深い意味があつて、学ぶといつても勉強がすべてではなく、あらゆるものから何かを得て、行動を起こしていくということばかりでした。

この研修で私の内気な性格が変わったのかと聞かれると、多分何も変わってはいないと答えると思います。ただ、私の中でいろいろなものの方は変わったと思います。挑戦してみるものだなと思いました。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださりありがとうございました。



## 第62回福島県 PTA 研究大会須賀川大会の概要

事務局：須賀川市立第三小学校

今年度の福島県 PTA 研究大会は、第62回を迎え、須賀川市で開催されます。須賀川市では10年ぶりの開催となり、県内から約1,500名の会員が参加し、須賀川アリーナを中心会場に開催されます。須賀川大会の日程・内容は下記のようになっております。

### 1. 大会主題 集い、語り、つながろう！文化のまち 須賀川で ～子どもたちの未来とふくしまのために～

#### 2. 趣 旨

大震災から立ち上がり前へと歩み続けている今、子どもたちのよりよい成長を願い、各学校の PTA 活動の実践を持ち寄り、共有していくことが大切であると考え、大会主題を設定した。社会環境が著しく変化中、価値観も多様化し、育てることが難しくなったなどということも聞かれる。そうした中で、子どもの柔軟性や創造力、生きる力をどう育てていくかを大人が話し合い、「PTA ができること」「PTA がすべきこと」を考えよう。すべては、子どもたちが光輝く明るい未来のために。

子どもたちが充実した学校生活を送るために、大震災、福島原発事故による困難を乗り越え、各 PTA が創意・工夫しながら PTA 活動を進めている。本研究大会では、各 PTA の取り組みや創意工夫した実践などの情報を共有し、明日からの実践につなげていきたい。

#### 3. 主 催 福島県 PTA 連合会

#### 4. 共 催 須賀川市教育委員会 鏡石町教育委員会 天栄村教育委員会

#### 5. 後 援 福島県教育委員会 福島県市町村教育委員会連絡協議会 須賀川市 鏡石町 天栄村 福島県小学校長会 福島県中学校長会

#### 6. 主 管 岩瀬地区小・中学校 PTA 連絡協議会

#### 7. 期 日 平成26年10月5日(日) 9:30~16:00

#### 8. 会 場 <全体会> 須賀川アリーナ <分科会> 須賀川アリーナ・須賀川市文化センター・須賀川市産業会館 須賀川市立第三小学校・須賀川市立第三中学校

#### 9. 参 加 者 福島県内 PTA 会員及び関係者 (約1,500名)

10. 日 程	9:00	9:30	11:30	13:00	14:15	16:00
	受付	分科会	昼食・移動	全体会	記念講演	

#### 11. 分科会

- 【第1分科会】組織運営「震災や放射能汚染を乗り越え、前進する PTA 活動」(市産業会館)
- 【第2分科会】研修活動「放射能から子どもを守るにはどうすればよいか」(須賀川第三小学校)
- 【第3分科会】家庭教育・健康安全「家庭と学校教育との関わり方」(須賀川市文化センター)
- 【第4分科会】健全育成「インターネット依存症を防ぐための家庭教育」(須賀川アリーナ)
- 【第5分科会】特別支援教育「特別支援教育への理解」(須賀川第三中学校)

#### 12. 記念講演 演 題『未来を生きるきみたちへー自由・勇気・希望が大切ー』 講 師 鎌田 實氏 [医師・作家 (ベストセラー『がんばらない』)]

# 安全互助会から

常日頃より、福島県PTA安全互助会に対し、ご理解とご協力をいただいておりますこと厚く御礼申し上げます。

## 万が一、 事故が発生したら

### ①学校に連絡してください。 【児童のケガ】

学校の管理下外での、急激かつ偶然な、外来の事故によるけがを補償します。

※入院、通院の場合、治療期間が七日以上の場合に対象

※低温火傷、腱鞘炎、疲労骨折などは、急激かつ偶然な外来の事故には該当しないため対象外

※学校管理下の登下校中（自宅より校門前まで）、学校休業中の部活動でのケガは補償対象

### 【PTA会員のけが】

PTA会員（含む児童）が、PTA主催・共催行事に参加している時の急激かつ偶然な外来の事故によるケガを補償します。

※入院、通院の場合、治療期間が一日から対象

※PTA行事の資料、計画書（事故日が記載されたもの）を添付のこと

- ・PTA奉仕作業中のケガ
- ・PTA球技大会の練習中のケガ
- ・PTA行事に参加するための往復途上のケガ など

### ②保険金の請求は面倒がらずに

医療費の無料化が進み、市町村によつて違いはあるものの窓口での支払いの必要がなくなつてきています。しかし、本制度は、あくまで保険制度で、医療費とは別に支払われるものなので、面倒がらずに請求手続きをしてください。

### ③賠償事故の不明な点は問い合わせを

児童、PTA会員の賠償事故の補償については、いろいろなケースがありますので、お問い合わせください。

### ④事故報告について

○傷害事故、賠償事故の報告については、ケガをした日・事故が発生した日が基準日となります。

○「事故報告書に、住所や氏名を記載しますが、「フリガナ」の付け忘れが多く見受けられます。そのたびに、学校・幼稚園、請求者ご本人に問い合わせさせていただくこととなりますので、本会宛に郵送

される際、付け忘れがないかどうかご確認くださいと思います。

### ⑤他の保険に加入している場合

○傷害事故については、加入している保険会社からそれぞれに保険金が支払われますので、本会にも忘れず請求してください。

○賠償事故については、他の賠償責任保険に加入している場合は、各保険で損害賠償を按分して支払うこととなります。

したがって、賠償事故については、他の賠償責任保険契約の有無についての確認をお願いしています。

## 編集後記

昨年度から、新たなコースとしてIVコースを設けましたが、今年度は昨年度の倍の二百九十校・園の加入をいただきました。児童の賠償責任の上限額を一億円としたコースですが、万が一の対応として選択いただいたものと思います。年度途中のコース変更はできませんが、次年度以降の加入の際、検討いただければ幸いです。

(T・H)

<http://www.fukushimaken-pta.jp>  
※年間三回発行される「PTAふくしま」もホームページで見ることができます。

## 共栄火災

# 夢を、未来を、 ずっと近くで支えたい。

## つながり強化宣言！ 共栄火災



サイ吉

人々が気持ちよく毎日を暮らせるよう、  
安心のチカラでそっと支えるサイ。  
共栄火災のサイ吉です。